

名古屋学院大学 様

EIZO モニターの信頼性とアームのフレキシビリティ。 全国的にも有数の充実した情報環境を提供する大学をサポート。

名古屋学院大学では、全国的にも早い1980年に情報教育センターが設置された。以来、特に学生の情報リテラシーの向上に力を入れ、情報環境の整備を行なってきた。複数ある情報教育教室では、学生各自のノートパソコンとデスクトップパソコンの両方が使用できるように、ネットワークや機器が整備されており、モニターには2系統入力のEIZO LCDモニターを採用。さらに一部の教室ではフレキシブルアームを利用した設置で、机の上のスペースを有効に使えるようになっている。



同大学では、入学時に全学部の学生を対象にノートパソコンが配布される。パソコンを授業の道具としてだけでなく、コミュニケーションツールとして活用できる能力、社会に出て通用するパソコン操作経験を身につけさせるという方針によるものであり、学生は、授業はもちろん大学生活の様々な場面でこのノートパソコンを広く活用している。さらに学内には1,900ヶ所の情報コネクタが設置され、ノートパソコンを繋げばいつでもインターネットに接続できる環境も整えられている。

製品性能に対する自信、保証期間の長さが安心感に繋がった

情報教育センター開設時にはCRTモニターを導入したが、1996年頃からは

徐々にLCDへのリプレイスを進めてきた。その時に選定したのはEIZOモニターであった。「EIZOのモニターはどこで聞いても評価が高いですね。」導入機器についてはこだわった選択を行なっているという情報教育センターの加藤氏は話す。様々な評価も参考に選定していく中で「特に保証期間の長さはEIZO製品を選定したポイントの一つでした」と加藤氏。「これはつまり品質に対する自信の表れであると認識しています。だからこそ安心して使えますよね。実際に6年前ぐらいから使用しているEIZOモニターでも、ほとんど故障していません。」現在同大学に導入されているEIZOモニターの数480台を超える。

省スペース、耐震、盗難防止、「メリットしか思いつきませんね」

今回、情報教育教室に新たにEIZOモニターを導入し、合わせてフレキシブルアームを使った設置を採用した。「教授から配信される映像を表示する中間モニターをCRTからLCDに置き換え、スキャナやプリンタも机に置きたいと考えていましたので、できるだけ机の上のスペースを広く使えるようにと考えました。そこで、モニター画面を前後に自由に動かして、画面下部のスペースも有効に使えるフレキシブルアームの使用を決めました。」（加藤氏）

導入してみて変わったことは、もちろん机の上の省スペース化。情報教育教室では、設置されているモニターに

ノートパソコンも接続して表示できるようになっており、その際には、モニター画面の下のスペースにデスクトップパソコンのキーボードや、ノートパソコンの画面部分を収納することで、モニター前面のスペースが広く使えるようになっていいます。学生からも「必要に応じて画面の位置を変えられますし、教科書や資料を広げるスペースもできて、以前よりも使いやすくなりました」と良い評価を受けている。

さらにアームでしっかりと机に取付けられているので、耐震面や盗難防止の面でも、アームは有効であるという。「その他、導入したことによるメリットはたくさんありますが、デメリットは思いつきませんね」と加藤氏は高く評価する。



ノートパソコンを使う際には、モニター画面を奥に移動させ、キーボードを画面下部のスペースに収納していただくことで、モニター前面のスペースを広く使える。

情報リテラシーの取得に注力

同大学では「CCS（キャンパスコミュニケーションシステム）」を導入し、履修情報、試験や休講の情報、授業に関連する資料のダウンロードなど、大学生活に必要な情報が携帯電話やパソコンなどネットワークを介して閲覧、利用できるようなもなっている。「ネットワークの利用度はこれからはますます高まっていくと思われるので、ネットワークやパソコンを使った教育がどのくらいできるかを考えていく必要があると思います。教材や教育の方法も変わっていくでしょうし、教授もパソコンを積極的に活用する方向に変わっていくべきでしょうね」と加藤氏。最近では教授が求める



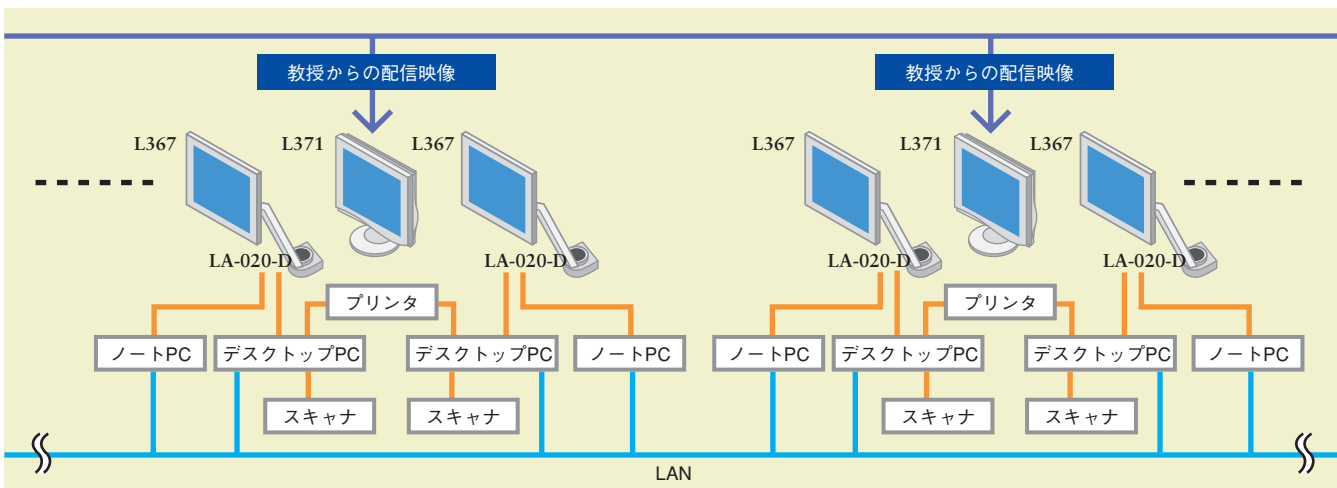
教室設備にも、ただパソコンを道具として使うだけでなく、プレゼンテーション能力を身につけるための環境を整備して欲しいという要望が出るなど、変化が見られることから、授業におけるパソコン活用の可能性はまだ大きいと加藤氏は見ている。同大学では、今後はネットワークを介して受講できる環境も積極的に導入したいと考えており、単位の一部が自宅での受講でも取得できるように考えていくなど、より進んだ情報環境、授業形態が整備されていくということである。



名古屋学院大学

1887年「愛知英語学校」として設立。1964年に名古屋学院大学として開学。学生が「学ぶ楽しみを発見する」ことができるようにという理念のもと、専門性の進化、職業意識の向上、国際感覚の形成、情報活用能力の育成に力を入れる。特に情報リテラシーの取得には力を入れており、全学部学生へのノートパソコン配布やCCSの導入、充実した情報環境の整備など、特徴的な取り組みを行なっている。

■ システム構成（例）第2教室端末室



株式会社ナナオ 〒924-8566 石川県松任市下柏野町153番地

営業1部 (03)5715-2011 名古屋 (052)232-7701
 大阪 (06)4807-7707 福岡 (092)715-7706
 北陸 (076)277-6790 営業2部 (076)277-3922

www.eizo.co.jp

EIZOは(株)ナナオの世界統一ブランドです。